

外科

部長

佐々木 章 (ささき あきら) 教授



- 出身 (大学・都道府県) /金沢医科大学・石川県
- 専門分野/内視鏡外科、消化器外科、内分泌代謝外科
- 得意分野/内視鏡外科手術、代謝改善手術
- 経歴/1988年3月に金沢医科大学医学部卒業、1988年5月に岩手医科大学外科学第一講座入局。2015年8月より岩手医科大学外科学講座教授となり、低侵襲な内視鏡外科手術の開発と普及に努めている。
- 専門資格等/日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医など。
- 研究課題/内視鏡外科、消化器外科、一般外科、内分泌代謝外科、乳腺外科、小児外科の基礎・臨床研究、移植免疫学、癌の細胞生物学など。
- 研究概要/内視鏡外科手術に関する臨床研究について英文論文で多数発表し、国内外から注目されている。最近では、肥満外科手術における口腔内・腸内細菌叢の変化、異所性脂肪量減少と代謝変化、2型糖尿病・肥満閉塞性睡眠時無呼吸への効果、NASH 合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化に関する研究も行っている。
- その他の加盟学会等/日本肥満症治療学会、日本臨床外科学会、日本臨床栄養学会、日本外科系連合学会、日本食道学会、Bariatric Surgical Practice and Patient Careなどで要職を務める。

部長メッセージ

外科学の進歩、医療を取り巻く環境と社会情勢の変化に迅速に対応できるような外科医の育成に努め、将来、種々の領域と地域で外科学の発展に貢献できればと思います。新外科専門医制度が開始される予定ですが、研修プログラムを充実させ、研修医と教室員の意向に沿ったテーラーメイド教育を考えています。手術のみならず外科学に興味を持つ仲間が多く集まってくれることを願います。日本内視鏡外科学会技術認定医、肝胆膵外科高度技術専門医、食道外科専門医、小児外科専門医取得のための見学や短期留学も歓迎いたしますので、是非気軽にご相談して下さい。また、創立120周年記念事業では、2017年4月に看護学部の新設、2019年9月に矢巾新附属病院(地上11階、延べ面積約86,000m²予定)の開院が予定され、医・歯・薬・看護の4学部からなる医療系総合大学となります。仲間となり、新病院で一緒に教育、研究、診療を行いましょう。

概要

外科の診療領域は広く、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺、小児外科チームから編成されています。各診療領域を回りながら、外科専門医を取得できる体制が整っています。手術では、国内屈指の内視鏡外科手術をはじめ、進行癌に対する集学的治療や肝移植などの高度医療も積極的に行っています。また、手術以外にも各種外科的処置、術後全身管理、癌化学療法や緩和療法など幅広い研修を行うことが可能です。

特徴・特色

2016年の手術件数は1,176件であり、手術は可能な限り低侵襲な内視鏡外科手術を選択しています。フルビデオで審査を行う日本内視鏡外科学会技術認定医制度の2015年度合格率は28%と厳しいですが、教室では現在までに23名を輩出しており、大学には各診療領域の技術認定医(8名)が常勤しています。主要疾患に対する胸腔鏡・腹腔鏡(補助)下手術の比率は、胆嚢良性疾患100%、内分泌代謝疾患(高度肥満症、副腎、甲状腺)100%、大腸癌95%、胃癌71%、肝癌60%、食道癌50%であり、技術と安全性においては国内外から高い評価を受けています。低侵襲治療を行う一方で、

高難度手術や集学的治療にも積極的に取り組んでおり、2016年までに肝移植81例を施行しています。また、高度救命救急センターや心臓血管外科との連携体制により、外科専門医に必要な修練も十分に経験できる環境も整っており、診療では自らの専門分野以外でも対応でき、患者の全身を診ることができる外科医の育成を目指しています。臓器別チームの他に、研究チームとして分子治療研究班が抗癌剤の効果判定・予測診断や術後再発の早期発見に向けたバイオマーカーの同定に取り組んでいます。他診療科の多職種と連携しながら横断的研究を行っており、基礎・臨床研究で学位指導が可能です。また、岩手医科大学医学研究科博士課程では、臨床研修医、社会人の方も社会人大学生として入学できるシステムがあり、研修しながら、働きながら学位の取得ができます。

私の研修時代

初期研修は、食道癌チームと食道静脈瘤チームで受けました。消化管内視鏡検査と処置、基本的手術手技、高侵襲手術における周術期管理を学び、患者の全身が診られる幅広い知識と技術を修得できました。

専門研修プログラム

スケジュール概要（専門医になるための必要経験年数、認定試験等）

I. 外科専門医の認定（岩手医科大学外科専門研修プログラム）

① スケジュール概要

外科専門医は初期研修終了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実施経験目録に基づいて、知識・技能・態度が専門医としてふさわしいものであるかどうか、症例経験数が内容を満たしているものかどうかを、専門医認定申請年（3年目あるいはそれ以後）の3月末に研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定を行います。

② 修練概要

(1) 診療経験

本研修プログラムの終了判定には規定の症例経験数が必要です。

最低手術経験数	350例
術者として	120例

消化管及び腹部内臓	50例
乳腺	10例
呼吸器	10例
心臓・大血管	10例
末梢血管	10例
頭頸部・体表・内分泌外科	10例
小児外科	10例
各臓器の外傷	10例

内視鏡下手術	10例
--------	-----

(2) 業績（外科専門研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。）

- 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加（うち一回は筆頭演者として発表）
- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の成果を発表

II-a. 日本消化器外科学会による消化器外科専門医の認定

申請者は、次の各号に定めるすべての資格を要する。

- ① 日本国の医師免許を有すること。
- ② 日本外科学会認定医（外科専門医）であること。
- ③ 継続3年以上本会会員であること。
- ④ 臨床研修終了後、指定修練施設において所定の修練カリキュラムに従い、通算5年間以上の修練を行っていること。
- ⑤ 所定の診療経験を有すること。専門医修練カリキュラムI（新）に示された手術については、指定修練施設における修練期間中に手術難易度・到達度別必須症例および必須主要手術の術者としての規定例教を含む450例以上の経験を必要とする。
- ⑥ 所定の業績を有すること。消化器外科に関する筆頭者としての研究発表を6件以上（論文3編を含む）とし、対象となる業績は、「本会評議員審査のための業績基準」に定められた医学雑誌および学術集会に発表されたもので、資格認定委員会が判定する。
- ⑦ 所定の研修実績を有すること。専門医修練期間中に本会総会に1回以上および本会教育集会の全

6 領域に出席し、総会は参加証で、教育集会は受講証によって証明できるものとする。

II-b. 日本小児外科学会による小児外科専門医の認定

- ① 通算 7 年以上の外科医としての経験を有すること。
- ② 3 年以上日本小児外科学会認定施設で研修していること。
- ③ 日本外科学会専門医であること。
- ④ 学会が定める執刀経験を有すること（合計 150 例以上、新生児 10 例以上等）
- ⑤ 筆頭著者である小児外科に関する研究論文、症例報告が各 1 編以上あること。
- ⑥ その他の小児外科に関する論文が 3 編以上あること。
- ⑦ 筆記試験に合格していること。

III-c. 日本内視鏡外科学会による内視鏡外科技術認定医の認定

- ① 申請時に日本内視鏡外科学会会員であること。
- ② 日本外科学会専門医あるいは指導医であること。
- ③ 胆嚢摘出術であれば 50 例以上（advanced surgery 5 例を含む）、大腸・胃切除などであれば 20 例以上を術者あるいは指導的助手として経験していること。（申請時より 3 年以内に行われた症例）
- ④ 専門領域の内視鏡下の advanced surgery を独力で完遂でき、これらの手術の指導ができること。
- ⑤ 本学会並びに関連学会が主催する、あるいはこれらの学会が公認または後援する内視鏡外科に関するセミナーを受講していること。（本学会教育セミナーへの 1 回以上の受講は必須）
- ⑥ 内視鏡外科手術に関する十分な業績を有すること。（申請時必要点数は合計 12 点以上）

修練概要（診療経験など）

診療経験（最低経験手術数等）

前頁参照下さい。

業績

前頁参照下さい。

関連研修科に関する情報

後期研修中の他科ローテーションは可能です。

救急医学、麻酔科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児科などを考慮しています。

特に救急医学とは密接な関係があり専門研修中にローテート研修を予定しています。

ライフプラン



注) 大学院に進学せずに初期研修または専門研修後に助教となった場合でも、基本的に全員学位取得して頂いています。

認定医・専門医取得に必要な年限（前ページを参照して下さい。）

最短の必要年限を要約すると、

必修研修（初期研修）2 年間を含む日本外科学会指定施設または関連施設における外科経験 5 年間（最短 5 年間）で日本外科学会外科専門医取得可能

最短 6 年間で日本内視鏡外科学会技術認定医取得可能

最短 7 年間で日本消化器外科学会消化器外科専門医あるいは日本小児外科学会小児外科専門医取得可能

注) 外科専門医としての修練を行うにあたっては、修練開始の登録の手続きを行う必要があります。修練期間（最短 5 年間）の算定方法は次の 2 つのどちらかのケースに分かれます（厚生労働省主導の卒後初期臨床研修期間満了後 6 か月以内に修練開始登録を行った場合に限り、卒後初期臨床研修の開始時まで遡って算定されるため）。

ア) 医籍登録後 2 年 6 か月以内に修練開始登録を行った場合、修練期間は医籍登録年月日から算定されます。

イ) 医籍登録後 2 年 6 か月を経て修練開始登録を行った場合、修練期間は修練開始登録日から算定されます。

このほか、外科の中で自身が専攻する領域によって、日本乳癌学会認定医・専門医や日本甲状腺学会認定専門医制度があり、取得できます。

講座ホームページ

外科学講座ホームページ <http://surgery.iwate-med.ac.jp/>